

サンゴの危機

完結編

今月号は、サンゴ特集の完結編です。

赤土の影響

八重山諸島における赤土流出は農地造成工事に伴うものや、造成後の畑から流れ出すものが大部分である。梅雨期や台風時に限らず、まとまった雨が降ると必ず赤土が流出する。赤土の流出で海が染まることはもはや珍しいことではなく、日常的に起こっているといってもよい。特に台風の際には、礁池から溢れ出た濁水で、沖合い数百メートルの礁嶺という高まりに砕ける外洋からの「白波」が赤く見えることもある。沖縄の土壌は表土が少なく、圃場整備の際には表面を大きく攪乱してしまう。これが流れ出す赤土の元になるわけだが、赤土が流れ出るように圃場をつくってしまっているという見方もできよう。

白保サンゴ礁の中央部へ流れ込む轟川河口には、赤土の少ない海域の実に八〇〇倍の赤土が堆積している(渡久山、一九九五年)。轟川は全長三キロ、流域面積十二平方キロほどの小河川である。この流域の八割は畑地や牧草地であるが、広い面積を占める畑地でマルチング(敷草)などによって表土の流出を防止する対策がとられているところは一カ所

もなかったという報告がある。マルチングは効果的な流出防止策として広く知られているが、手不足やその手が農家の収入にながらないことが、積極的な防止策の実施にいたらない理由である。



白黒ではわかりにくいですが、河口から流出した赤土を含んだ淡水が、急速にサンゴ礁の中へ広がってゆく様子。降雨後2、3時間でこの様になってしまう(白保サンゴ礁で一九九四年六月撮影)

赤土のサンゴ礁への影響

サンゴの白化現象の原因になる。長時間持続すると、魚類は呼吸しにくくなり、赤土濁りを嫌い逃げたしまう。シラヒゲウニの卵と幼生は浮遊が妨げられ、死んでしまう。赤土の影響の強いところでは、生物はまったくいれないか、わずかな種類しか生存できない傾向が見られる。



ケンちゃんが使っている布袋



こちらは「のっぽ」の布袋

ケンのドイツリポート

Vol.2

過剰な開発などで数を減らしていくサンゴ礁。サンゴを守るうとすれば陸の環境も関連しているため、海、陸、人がバランスを取って共生しなければいけません。サンゴ礁は地球最古の生態系であり、約五億年を持っています。ところがサンゴ礁の自然は簡単に壊れてしまいます。その原因の大部分は人間が絡んでいることも、わすれないでおいってください。サンゴ礁はガラスの城なのです。

こんにちは。ドイツのケンです。ドイツの買い物袋についてひとつ。ドイツの袋はくれません。有料です。なのでみんな布製の袋を持っています。もちろん自分も。これがまたなかなか丈夫でデザインもいろいろあって、しかも一円から二五円ぐらいで買えます。すごい便利ですよ!

編集後記

ちいさなサンゴが集まって巨大なサンゴ礁をつくります。無数の生物がすみ、豊かな生態系です。人間の生活や文化もサンゴ礁と深くかかわりサンゴの海は、龍宮城にたとえられてきました。しかしそこはもろく崩れやすい世界でもありません。遠くはなれた所での出来事ですが、人事ではあります。私たちの地球で起きている出来事です。今、自分には何ができるのかを考えて行動して行こう!